

# RES100 リサーチ入門 (J)

1年 1,2クォーター

担当教員 伊藤 勇

授業形態 講義

アクティブ・ラーニング 一部導入

単位数 2

曜日・時限 火曜日・4時限

## 授業概要

ソーシャル・リサーチ（社会調査）の基本的事項に関する解説を通して、社会科学系における実証的な調査研究の意義と役割、社会調査の論理と方法、調査研究の倫理等についての基礎的理解を得ることを目指す。講義で取り上げる事項は、社会調査の意義と用途、社会調査の歴史、社会調査の諸類型、社会調査の倫理、量的調査と質的調査、社会調査の進め方、社会調査の方法と実際（観察とインタビュー、公式統計等の利用、調査票調査、サンプリングの考え方、質問文・回答選択肢等の作り方、分析と解釈）などである。

## 到達目標

- ・社会科学における実証的な調査研究の意義・役割を理解する。
- ・社会調査の考え方や主要な方法について基礎的な理解を得る。
- ・調査研究の倫理について基礎的な理解を得る。

## 先修科目

特になし

## 教科書・参考資料等

教科書：平松貞実『事例で読む社会調査入門』新曜社。

参考書：大谷信介ほか『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房、  
谷岡一郎『データはウソをつく—科学的な社会調査の方法—』筑摩書房など。

## 授業の方法

講義形式の授業だが、一方通行の授業を避けるため、受講者全員に毎回短い感想メモを提出してもらう。また、毎回数名ずつコメンテーター役を割り当て、授業内容についてコメントおよび質問を準備させた上で、10～15分程度の質疑応答を行う。

## 成績評価

成績評価には、①毎回提出する授業の感想メモ、②コメンテーター役を割り当てられた回に提出させる小レポート、③中間レポート、④期末レポート、計4種類の提出物を用いる。

## 成績

修学態度 (①+②)	20%
中間レポート (③)	30%
期末レポート (④)	50%

## 授業スケジュール

### 第1回： ガイダンスおよび序論

授業の概要・進め方・成績評価法の説明

序論：社会調査（ソーシャル・リサーチ）とは、社会調査の意義と用途

### 第2回： 社会調査の諸類型

目的、方法、データによる社会調査の分類と著名な調査事例の紹介

### 第3回： 量的調査と質的調査

量的調査法および量的データの特長と限界、質的調査法および質的データの特長と限界、

量的調査・データと質的調査・データとの相補性

**第4回： 社会調査の進め方**

社会調査の諸段階：企画，設計，実査，データ化，データの分析と解釈，調査報告の作成と公表

**第5回： 社会調査の方法（1）**

観察（参与観察，非参与観察）とインタビュー（構造化，半構造化，非構造化），研究事例の紹介

**第6回： 社会調査の方法（2）**

公式統計の利用価値，実際の利用法，利用に当たっての留意点

**第7回： 社会調査の方法（3）**

調査票を用いた調査（アンケート調査）の特長と利点，活用例と留意点

**第8回： 世論調査の実際から（1）**

調査票の代表例としての世論調査，サンプリングという考え方，調査における様々な「誤差」について

**第9回： 世論調査の実際から（2）**

質問文における表現や質問順序と「誘導」の問題

**第10回： 世論調査の実際から（3）**

回答形式・選択肢の作り方における諸問題

**第11回： 世論調査の実際から（4）**

世論調査をどう読むべきか，結果の表現と解釈における留意点

**第12回： 世論調査の実際から（5）**

世論調査と現代社会，メディア社会の中の「世論」と世論調査

**第13回： 社会調査の歴史**

統計調査の起源，近現代における社会調査の展開，日本の社会調査小史

**第14回： 調査研究の倫理について**

社会調査の成立条件，調査における人権尊重，説明に基づく同意，研究不正を防ぐには

**第15回： まとめと課題**

全体を振り返り調査研究の「基本の基本」を再確認

期末レポートの課題説明

**事前・事後学習**

---

- ・ 予習：教科書および参考資料の該当する章を予習しておくこと（1時間程度）。
- ・ 復習：授業内容を復習し、疑問点を整理すること（1時間程度）。